

10. 九州（地域別調査機関：（公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている	－	－	－
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・売上にさほど変化はないが、来店する客が以前より増えている。購買に直接つながらないが、何か欲しい、何かを求めようという購買行動の前段階の行動が十分にみられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・入学、卒業の時期でもあるので来客数は増えている。メディアのいろいろな情報により不安もあるなか、家族連れ、お年寄りの方が町に向かって何かを求めてきているので、これからもっと町づくりを考えていく必要がある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・暖かくなり、土・日・祭日の来客数が減少しているが、平日の来客数が伸び、土・日・祭日の来客数減少をカバーできており、客単価も若干増加している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・気温の上昇とともに春物衣料の動きが順調である。連休直前と旅行シーズンを控え、また母の日のギフト用商品も購買の動機の一つになっている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・高額かつら販売催事や先月に続き開催したクレジット催事も好調である。催事期間中の声掛けで新規会員獲得も好調で、客の購買意欲が感じられる。また、今週開催の北海道物産催事も来店客数増の効果がみられ、連日盛況に開催している。また、街ぐるみの集客策で近隣地区への客足が伸び活気が出てきた。
		百貨店（営業統括）	単価の動き	・宝飾や時計などの高額品の売上と単価が上昇し始めた。
		百貨店（営業政策担当）	販売量の動き	・天候与件に加え、天神地区専門店のリニューアルの影響等で、自店の入店客数は一進一退だが、施策やプロモーションに対する客の反応が良くなってきており、買上率がやや上昇している。また、天候与件や買上点数が上昇することで客単価も伸びてきており、売上高は前年水準を維持、ないしは上回っている。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・売上は、1月が浜屋前年比99%、ゆめサイト同99%、アミュプラザ同99%である。今月の見通しは浜屋前年比101%、ゆめサイト同98%、アミュプラザ同101%ということで3か月前より若干良い。衣料品に関しては今月中旬に気温がかなり低下して苦戦したが、若干今盛り返してきている状況で前年実績を超えており、アミュプラザ前年比99.4%、浜屋同103.4%となっている。食料品はアミュプラザ前年比98.2%、浜屋同103.1%、見回り品はアミュプラザ前年比97%、浜屋同104%となっている。入店客数は、浜屋が3か月前前年比96.3%、今月は同99.5%位でほぼ100%となっている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・レジでバスタココーヒーの販売を始めた影響で、客単価は少し下がっているが、その分客数が伸びて売上自体は増えている。まだプラス1品の買物が少ないようだが、少しずつ客数が上向いている。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・客数は伸びていないが、客単価が上がっている。相変わらずフリー客は少なく、顧客の動員に頼っている。景気の良さを見聞きするが、実感できるほど売上は上がっていない。
		衣料品専門店（チーフ）	単価の動き	・歳末商戦を終えても売上が加速して伸びている状況がみられ、アペノミクス効果も少し表れていると思う。ゴールデンウィーク入る前の4月後半に関してはやや低迷気味である。
	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	競争相手の様子	・相次ぐ近隣の競合店舗のリニューアルにより客数、販売量が低下している。	
	その他小売の動向を把握できる者 [土産卸売] (従業員)	販売量の動き	・空港での売上が前年比115%と増えてきた。季節的要因で増えたのか、景気がやや良くなり増えたのか、はっきりしない。2、3か月様子を見る必要がある。	

	その他小売 〔ショッピング センター〕（広 報担当）	来客数の動き	・客数については、競争環境が激しくなるなかでも持ち直し傾向にある。より低価格を求めて、複数店舗を買い回る傾向がみられる。客数は増加傾向にあるものの客単価は上がらない。1点単価が下がる一方で、1人当たりの買上点数はなかなか増えない。
	高級レストラン （支配人）	単価の動き	・ディナーで高いコースが出るようになった。
	都市型ホテル （副支配人）	お客様の様子	・一般の団体や個人のビジネス、インバウンドの個人のビジネス、またインバウンドの修学旅行、団体修学旅行といろいろな多方面の客層が増えて入っている。
	旅行代理店（企 画）	販売量の動き	・4月に入って2週間で受注が増加傾向にある。販売額、販売人員共に個人旅行においては、4月は前年並みだが、5月分は前年同期と比較し、国内海外共に人数と販売額が下回っている。一方で、6月分は前年同期比を上回っている。特に海外旅行が好調である。
	通信会社（営業 担当）	お客様の様子	・様々な企業の客を訪問するが、すべてではないが、やや良くなった、あるいはやや良くなりつつあるという客のほうが多い。
	美容室（店長）	お客様の様子	・旅行に行くという客が多くなった。
	その他サービス の動向を把握で きる者〔介護 サービス〕（管 理担当）	来客数の動き	・季節要因により顧客増が見込まれ、また介護報酬改定から1年経過し客の利用控えも減少傾向にある。
	設計事務所（所 長）	販売量の動き	・公共工事に期待でき、また民間の個人住宅が消費税増税前の駆け込みなのか、少しずつ増えている。
	設計事務所（代 表）	お客様の様子	・問い合わせが増えた。
	住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・春先から住宅イベントでの集客数が増えてきている。ゴールデンウィーク前半の集客数も前年を上回っている。ただ、現時点では受注数の増加にまでは至っていない。
	住宅販売会社 （代表）	それ以外	・状況的にはやや良くなっている。理由としては、新築の住宅の建設でいくと、大工、基礎工事業者の仕事の状況がかなり先まで埋まっている状況が見受けられる。いろいろな理由はあるが、そういう状況を見るとやや良くなっている。
変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・政府の経済対策・アベノミクスで景気がかなり向上していると言っているが、実際には来客数、販売量等々向上している状況ではない。
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・マスコミ等でアベノミクスという言葉が国民に使って景気が良くなるようなことを言っているが、零細企業においては、一般庶民の給料が上らず、これから電気代が上がるというときに、景気が良くなるのか少々疑問である。
	商店街（代表 者）	来客数の動き	・景気は変わらない。アベノミクス効果で大手企業は上昇傾向とメディアで取り上げられているが、中小企業、主に当店のような小売販売店には全くといっていいほど影響がない。当店はキャンペーンなどを組まない品質重視の定価小売販売であり、消費者は安い金額の方に行くため、来客数は減ってきている。
	一般小売店〔青 果〕（店長）	お客様の様子	・宮崎産の果物の進物関係は、昨年の相場に比べて2、3割安いことと、また、取引先である野菜を納品しているピザ屋では、今回のゴールデンウィークの発注が、昨年の2、3割減の発注量となっているので、変わらないどころか、少し厳しい状況が続いている。
	一般小売店〔精 肉〕（店員）	それ以外	・3か月前と比べて特段の景気の変化はない。
	一般小売店 〔茶〕（販売・ 事務）	販売量の動き	・新茶も徐々に入荷しているが、売行きは鈍く販売量も単価も低い。
	百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・3月は気温が高く推移したこともあり、売上が順調に推移したが、4月は気温が低い日が多く春物衣料の動きが悪かった。3月は景気が安定してきたと感じていたが、4月の商況をみると、まだまだ安定して回復していないようだ。
	百貨店（総務担 当）	販売量の動き	・主力であるメンズ、レディースファッションテナントの売上が回復しない。また、飲食テナントの客数が前年に比べ増加せず、売上也伸びてこない。
	百貨店（企画）	販売量の動き	・購入単価・数量、買上率、商品単価に大きな変化がない。

百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・饗別・返礼等の個人向けギフトや入学・卒業関連、ブライダルジュエリー等では利用があるが、気候が不安定ななか、衣料・雑貨の売上が影響を受けており、多くの客にファッションを消費する余裕が出ているとは言い難い。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・今年は春の到来が早く、衣料品の春物の動きに期待したが、4月に入り寒暖の差が激しい日が続き、客も買物を控えることが多く、全体としては昨年より悪い。高額品の動きもそれほど良くない。ただ、円安により輸入物の値上がり、価格改定前の駆け込み需要は強い。
スーパー（店長）	来客数の動き	・食品はポイント還元や割引、セールの日売上集中しており、競合店も同じような状況で、客はよりお得な店を買い回っている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・売上の状況は、天気、気温、曜日等の要因に大きく左右されるため、前月が良かったから今が悪いかという状況ではなく、景気の底固さというのはいらない。
スーパー（店長）	単価の動き	・販売数量は3か月前よりも増えているが、販売単価の伸びが今一つである。
スーパー（総務担当）	それ以外	・気温の低下もあり、春物・初夏物の動きが伸びてこない。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・近隣地区に同業他社の参入がある等、経営環境の変化以外には大きな変動はない。客単価も低単価品だけでなく、若干ながら高額商品に動きがみられ、改善の兆しはみられるものの、売上を押し上げるまでの変化はない。春物は特に衣料品の動きが鈍く、生活雑貨の動きが良かったが、衣料をカバーするに至っていない。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・花見需要が3月にずれ込み、惣菜や飲料等の販売量が4月初めに落ちこんだ。
スーパー（業務担当）	販売量の動き	・衣料品に関して、3月の気温上昇期には春物の動向が期待できたが、今月に入ってから春物の販売消化率が極端に低下している。朝晩の温度差が激しいこともあり、例年は今頃から動き始める半袖も不調が続いている。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・コンビニエンスストアの客は目的買いの客が大半なので、自分が必要な物だけ買って行く傾向がある。景気が良くなると、他の商品も購入するついで買いの行動が出てくるが、今のところ客単価の上昇がみられないため、景気の大きな変化はないと判断している。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・平年は3月中旬より気温も上昇し、水ものと言われる飲料、アイス、夏弁当が売上の中心となるが、本年は異常気象により売れず前年を下回っており、厳しい状況である。景気回復の兆しがあるとされているが、地方ではその兆しが全くみえない。都市だけの話である。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・来客はあるが、依然客の財布のひもは固く、売上に繋がっていない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・日によって来店する客にばらつきがある。一か月で見ると大体同じ来店客のようだ。
衣料品専門店（総務担当）	競争相手の様子	・商店街の同業他社の話や、上場企業における20日縮めの売上動向等をみると、3月にかなりの需要を先食いした結果として、4月の販売はあまり芳しい話を聞かない。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・1月に比べて4月は定価品が売れる時期であるが、確かに高額な物の動きはある。また高額な催事も成功している。ただ、買いやすい物、安い物の単品買いという傾向も一方にあり、この経済効果がどこまで続くか分からないが、二極化しているような月だった。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電についてはずっと悪い状態が続いていて、一向に良くなる気配がない。販売量を見ても、来店数を見ても、非常に悪い数字が続いている。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・例年動き出す夏物商品が不調で、売上をけん引する商品が見当たらない。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・売上前年比と比較すると状況はあまり変わっていない。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・ハイブリットカーなどのエコカーの販売が引き続き順調である。

その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	販売量の動き	・2、3か月前と比べると売上の的には全く横ばいの状態である。ただし、コーヒーの販売量は増えている。顧客の数は若干出足が鈍いところがあるが、その割には客の購入単価が上がっているため、景気は変わらない状態である。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格は、下げ基調となり大きな変動はない。カーケア商品である洗車においては、高額商品であるコーティング商品を購入する顧客が、微増ではあるが増えつつある。
その他専門店 [書籍] (地区支配人)	販売量の動き	・年間を通して月商売に差があり、3か月前の1月は4月より高く、販売量として4月は低かった。ここ数か月の前年実績を超えない傾向に変わりなく、マイナス成長の基調に変化がみられない。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・特に目立って売上が上っている様子がない。
高級レストラン (専務)	来客数の動き	・外国人客が少し増え、テレビやマスコミではアベノミクスにより少し良くなると期待しているが、普通のウィークデーは利用客が少なく、金土日に偏っており、まだまだ心配である。
居酒屋 (経営者)	来客数の動き	・歓迎会シーズンであるが客数が少ない。歓迎会をしなくなった会社が多いようである。
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・今月は宿泊・宴会・レストランとも計画・前年を大きく上回った。人の動きも活発である。
都市型ホテル (販売担当)	単価の動き	・客の予算などは一向に上がっておらず、財布のひもも固く閉じたままで、安い物に飛びつく傾向にある。
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・例年の予約状況と比較しても大きな変化はみられない。
旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィークについて、国内は近場を中心に好調である。海外は回復傾向にあった韓国がここに来てミサイル問題などの影響で悪くなり、日並みの悪さもあり低調である。
タクシー運転手	販売量の動き	・長崎においては観光客がかなり上向きの状況である。稲佐山の夜景観光が世界の3大夜景に指定されたこともあり、観光客がかなり増えている。我々にもかなりその影響が出ている。しかし、夜間における歓楽街の動きは鈍い。
タクシー運転手	お客様の様子	・今年に入って月末、月初めが特に悪く、中旬辺りで少し盛り返しがみられるが、良いとも悪いとも言えない状態である。
タクシー運転手	来客数の動き	・会社関係のチケットの扱いは多くなったが、全体的に出控え、買い控えがあつて少し客足が鈍っている。
通信会社 (管理担当)	それ以外	・相変わらず資金繰りが厳しい状態が続いている。
通信会社 (業務担当)	販売量の動き	・4月は例年同様、月初の販売台数は上がっているが、月中から月末については販売が低調で、人気商品の品薄もあり、平日、週末共に来店客数、売上台数が下がってきており、厳しい状況が続いている。
ゴルフ場 (従業員)	来客数の動き	・昨年に比べても今年は非常に客足が少なく、それに伴ってゴルフプレーする県外客が減ってきている状況で苦戦している。また、地域としても地元プレーヤーに対しては値引きをしたり、プレー価格を下げたりしないとなかなか来てもらえないという状況が続いている。
ゴルフ場 (支配人)	来客数の動き	・4月上旬は年度初めや異動時期で仕事が多忙なのか来客は低調であったが、その後は春のコンペや個人客が順調に入っている。しかし、中央で経済指標が活発に伸びているほどに地方の消費は伸びておらず、客足の動きは例年並みである。
美容室 (経営者)	販売量の動き	・販売量がどうしても今一つ上がっていかない。販売量の動きをみると、客の景気回復が遅れているようだ。おしゃれ産業では、毎月の売上そのものが景気回復のバロメーターになっているのが、今一つ末端まで景気回復していない。
美容室 (店長)	来客数の動き	・サラリーマンの異動月であったので、来客に変化があった。
音楽教室 (管理担当)	来客数の動き	・今月あたりは生徒が父親の転勤等で動く。また、進学により生徒がレッスンを辞める。

	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・宅建業の住宅関係は、客の様子から株価が上がるなど景気が良くなるというような話はあるが、実効的に景気が良いとか、賃金が上がるという話は現実味が伴っていないので、需要に結びつくような動きが今のところみられていないのが現状である。
やや悪く なっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・4月は暖かかったり、寒くなったりと天候不順のためになかなか売れる商品の基準が定まらず大変苦労した。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・今月は気候の関係で少し気温が上がらなかったの で、ボリューム層の動きが非常に鈍かった。3か月前に比べてやや悪いのは、アベノミクスの効果が現実になり、それが今後の経済環境改善への期待につながらなかったためとみている。夏のボーナス以降どうなっていくかが非常に注目される。
	スーパー(店長)	競争相手の様子	・競合店がちょうど1年前にできて、売上の前年比の91.5%位で推移している。生鮮食料品の特に青果が相場安のため、前年の8掛けとなっており、青果が一番苦しい状況である。衣料品も夏物衣料があまり芳しくない状況で前年比93%位で推移している。全体的には現状厳しい状況で推移している。
	スーパー(店長)	お客様の様子	・現状、競合店調査を進めるなかで価格競争が激しくなり、売価を下げざるを得ない。客数はかなり回復してきたが、利益が圧迫された状態が続いている。
	コンビニ(販売促進担当)	単価の動き	・3月は若干ではあるが今までよりは良かったが、4月に関しては1、2月に逆戻りして終わった。
	乗用車販売店(従業員)	来客数の動き	・決算が終わり極端に客の来店が少なくなった。
	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・4月の動向は、最初のほうは少しずつ客も動いていたが、ゴールデンウィークが近づいた月末になって予約、客の伸びが鈍った。先月の回答で4月はアベノミクスの経済効果で良くなるのではと思っていたが、思ったような好結果は得られなかった。
	通信会社(総務局)	販売量の動き	・新規契約数の伸びが鈍化、反面解約数が増加しており、純増は横ばいである。
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・季節的に販売量が上向くはずだが、その傾向がない。
悪く なっている	一般小売店〔鮮魚〕(店員)	単価の動き	・高いものが売れない。珍しいものと思って高くても仕入れたが、結局残って安くしないと売れない。
企業 動向 関連 (九州)	○	○	○
やや良く なっている	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、スーパー向け、居酒屋向けが順調な流れである。ただ、加工メーカー向けは少し弱いようだ。供給が多いというのが一番の原因である。
	家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・小規模な特注家具製作会社にも受注が入り、今月の生産が追い付かない業社が多くなっている。また、配送業者も配達量が2割増しになっているとのことである。
	輸送用機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・生産量は5%増の見込みである。
	通信業(経理担当)	それ以外	・平成24年度の決算が確定し、業績が大幅に向上した結果、年度末の一時金が例年額に加増支給された。
	金融業(従業員)	取引先の様子	・金属製品等の生産が減少する一方、百貨店では売上がやや回復した。また、災害復旧関連工事を含め公共工事が増加してきているほか、韓国、台湾などからの観光客が増加しており、雇用面でも若干改善している。
	金融業(営業職 渉外係)	取引先の様子	・販売先からの受注が上向きになっており、機械などの設備投資にも前向き傾向である。取引先の資金需要が増加している企業が増えている。
	金融業(調査担当)	取引先の様子	・取引先の小売業では、高額商品が売れているようだ。株価上昇に連動した動きと整合的だ。
	経営コンサルタント(代表取締役)	取引先の様子	・取引先に業況を聞くと、上向きであるという回答が多く、苦戦しているという話を聞くことが少なくなってきた。
変わらない	農林水産業(従業員)	受注量や販売量の動き	・畜産関係の販売は、牛、豚、鶏、加工品とも今までとあまり変わらないくらいで推移している状況である。
	食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・安定的な受注があり、工場稼働率が高く推移している。

	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は去年より少ない。新しい物件があるものの、全体的に在庫調整などで生産は抑えられている。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度に入ってから、いくらかアベノミクスで良くなると期待したが、焼物業界ではそういう声は増えていない。受注関係においてもあまり変わっていない状況である。消費税アップという面にしても、商品が高額でないので影響がない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が思ったほど増えていない。ユーザーが決算期を迎えて次の計画中ではないかと予想される。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は今までとほとんど変わらず少なく、受注するためには採算を度外視して単価を下げ受注する状況である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・発注先から仕事量が全体的にダウンしており、これからどうなるのかという難しい局面に入っているのが実情である。従って、悪い状態で変わらない。	
	精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は、3か月前と生産量も変わらない状態にある。	
	建設業（社員）	競争相手の様子	・若干の補正工事が発注されて例年よりは良いが、同業者のなかには年度末で手持ち工事が完了して、仕事がないとよく聞く。平成24年度の補正予算分が全部発注されてはいないようだ。早期の発注を願う。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・円安でコスト高になっている荷主が多い。しばらくは厳しい状況が続く。	
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・3月の年度末には若干の盛り上がりはあったが、他の時期はあまり変わらない。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小零細企業は、全般的に長期間続いたデフレにより材料・資材などの輸入品に依存した経営を続けてきた。最近の急激な円安は徐々に収益を圧迫し始めている。したがって、マクロ的には景気浮揚の雰囲気はあるが、実態は低迷したままの状況である。	
	新聞社（広告担当者）	受注価格や販売価格の動き	・年度初めの4月は新聞広告の出稿が伸び悩むが、通販や化粧品広告は順調で前年を超えた。反面、3月まで売上をけん引していた住宅設備の広告出稿が少なく、全体ではやや前年を下回った。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・いろいろ営業活動をやっているが、それが成約に結びつかない。	
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・業態変更が行われている。良い傾向だ。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・景気が良くなっているというようなことをマスコミでは伝えているが、現実の数字としては3、4月とも大して変わらない。昨年と比べて特に増えていることはない。一つプラスなのは、建築が結構目について増えてきており、不動産や建築関係の受注は増えているようだということである。	
	やや悪くなっている	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村が発注する建設関係の調査・計画は、3月に補正予算が組まれた関係で、4月になって発注されている事業が少ない。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	○	○	○
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼の件数が前年比50%増加している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・パーティコンパニオンの派遣を行っているが、昨年よりも4月の稼働率が高くなっている。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・実質雇用の現場で、求職者の囲い込みをするなど一般的な雇用増はないものの、株価浮揚による証券事務の増員や贈与税軽減の教育資金の取り込みによる信託銀行の増員は、既にある。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・派遣に登録するスタッフも増えているなかで、正社員が決まったので、登録解除をしたいという方も増えている。
		人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・求人数が増えてきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・フリーペーパーの設置をしているが、返本数が増えている。求職者が減少傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・株価が上昇している。

	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことだが、オフィス街の夕方、あるいは週末の繁華街の人出が増えている。また、飲食店なども例年の同月と比べても、客入りが明らかに多い。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新規求人は前年同月比で7か月連続増加、新規求職は4か月連続減少しており、雇用状況は改善している。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・3月の動向をみると、就職件数は前年同月比14.0%増となっている。
	職業安定所（職業相談）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・このところ卸売・小売業、飲食業、宿泊業を中心に、新規求人数が増加傾向にある。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度がスタートしたものの、大幅な派遣依頼は多くなく、通常通りと変わらない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の求人広告は医療・福祉分野や調理補助のパートなどが堅調に推移している。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣従業員数は3か月前から比較すると6%程度落ち込んでいる。年度替わりのタイミングで契約が終了するため、例年の傾向ではある。求人数も3%程度落ち込んでおり、今のところ、例年通りであるが、法規制により短期単発の仕事が減少していることから全体的に落ち着きすぎている。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人数が上昇傾向を示す材料は見当たらないが、横ばいで推移してきた。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	雇用形態の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・円安、株高で景気動向は上向きだが、雇用に関しては特に地方の場合、まだそこまで改善されていない。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人依頼で来訪する企業のうちいくつかは前年度より求人増の意向を示しているが、景気の動向に結びつくような顕著な動きにはなっていない。
やや悪くなっている	—	—	—
悪くなっている	—	—	—